



Nagoya GRAMPUS

名古屋グランパス ワイズメンズ クラブ

NAGOYA YMCA 35-16 DAIKANTYO HIGASIKU NAGOYA 460-0002 JAPAN

国際会長主題	「希望の灯となろう」	“Be the Light of Hope”
アジア会長主題	「希望の灯となろう」	“Be the Light of Hope”
西日本区理事主題	「思いやりを持ってワイズライフを！」	“Enjoy Y's life with Consideration !”
中部部長主題	「楽しくワイズ、スクラム組んで」	
クラブ会長主題	「YMCAリーダーと共に」	

2008年10月号

— <今月の聖句> —

あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、行わせておられるのは神であるからです。

フィリピの信徒への手紙 第2章13節

グランパスホームページ <http://www5.ocn.ne.jp/~ysmen/>

2008年10月例会ご案内

◎第一例会

と き : 10月4日(土) 19:00~

と ころ : 名古屋YMCA

ドライバー: 早川君

卓話: 「フィリピンハートキャンプ報告」

講師: 松原 誠氏

9月に開催された「フィリピンハートキャンプ」に
グランパス広報担当として参加した松原君の、
映像を使った報告を聞きましょう。

◎第二例会

と き : 10月24日(金) 19:00~

と ころ : 名古屋YMCA

◎根の上祭り

と き : 10月13日(月)

と ころ : 根の上キャンプ場

詳細は別途(案内が行ってませんか)

◎南山YMCAバザー

と き: 10月26日(日)

詳細は別途

9月例会	例 会 出 席 状 況				B Fポイント		クラブファンド(9月)	
	在 席 者	15名	第 1 例 会	13名	当 月・切 手		ニコBOXノート	
例会出席者	13名	第 2 例 会	8名	当 月・現 金		感 謝 ファンド		
当月出席率	87%	部 会 他	名	累 計		累 計		

“TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT”

＝強い義務感を持とう。義務はすべての権利を伴う＝

第一例会報告



9月第一例会報告

開催月日:2008年9月6日(土)19:00~

場所:名古屋YMCA本館

参加者:阿部、荒川、坂口、下村、徳田、服部、
坂野、松原、信田

1. 報告事項

- (1) フィリピンハートキャンプの結団式・激励会をサポートした。支援金18000円
9月20日の夏の感謝会にて一部報告がある。
- (2) 日和田火祭は今年が最後となった。盛大に行った。
- (3) 街頭募金は9月20日(日)午後栄・大須で開催する。グランパスは栄の担当
- (4) 根の上まつりは10月13日、根の上キャンプ場で開催
- (5) 四日市クラブの釣大会は10月26日に開催。

2. メインテーマ「今後のファンド事業について」

これまで重要なファンド源であった「日和田高原火まつり」のYMCAコーナーであったが、「日和田高原火まつり」そのものが今年最後となり、来年からは開催されないことを受け、グランパスの今後の活動を支えるファンドをいかに造り上げるかが課題となりました。どのような方法が考えられるか。メンバー各位のアイデアを出すこととしました。

坂口:ちりめん・もろみ等食材をゆうパックを活用して全国のワイズに販売する。容器は常滑の壺を利用し、中身は泉万で用意する。

坂野:フリーマーケットへの参加。以前から案はあったので実現したい。収益性は大きい。

下村:ジャムを作って販売。通信販売、フリーマーケット販売等応用範囲大きい。

徳田:地域の祭にトイレットペーパー崩しで出店。地域との連携を図る(CS活動)、

服部:各自値打ち物はあるのでネットオークションで販売する。誰が担当するかが課題。

荒川:ニコボックスを復活する。地道にファンドが積み立てられる。

信田:外国から物を輸入して販売する。当たれば収益性大。

以上アイデアは出るもの一つに纏まるものでもないため、ファンド委員会を設立し検討することとした。委員は早川君、信田君、松原君とする。時期を決めて委員会からの具体案の答申を受け実行に移すこととしたい。

3. その他

- (1) 合同例会のホストとして実行委員会を第二例会にて検討する。
- (2) ジャガイモは1ケース1600円とすることを再確認した。
- (3) 地域奉仕・環境事業「環境マラソン」については第二例会にて検討する。

第12回 中部部会



08年度中部部会に参加して

三井 秀和

9月13日第12回中部部会が中区中央教会、懇親会は中日パレスにて開催されました。

12時より合同メネット会、13時より中部評議会、14時より部会、16時より場所を中日パレスに移動し懇親会とスムーズに時間どおりに開催されました。

現区理事佐藤氏とともに直前区理事神谷氏ら多数の区役員、中部メンバーの参加を得て、当日の部会の進行は教会ということもあり、厳粛に粛々と進められました。評議会としては前年度事業承認後、今期の事業計画、予算の承認を得て、名古屋ブラザ大島氏の次期部長承認でやっと私の07年度の部長職務の完結を得たと思います。

特に評議会にて私の任期中の活動報告、中部会計報告の承認をいただき評議員の方々に感謝いたします。

引き続きの部会は来期横浜で開催の国際大会のアピールやEMC アピール、評議会報告を済まし無事スケジュールを終了いたしました。

その後の記念コンサートは中央教会設置の日本有数のパイプオルガンを、奏者鈴木美紀子氏にて聞くことができ非常に貴重な体験をさせていただきました

感激いたしました。また名古屋クラブ長井氏のパイプオルガンについてのあれこれの説明もあり、見識を深めることができました。

その後、近くの中日パレスに移動、用意された盛大な懇談会は、名古屋クラブ久保田の名司会により、いろいろと内容の濃い懇親会となりました。次回の西日本区大会のスポンサーである熊本ジェーンズの熱心なアピールにわたくしだけでなく参加者皆感激。来年6月にはさぞ中部から多数が参加されるのではと思います。



中部部会メネットアワー



出席：早川メネット、服部メネット

9月13日(土)12:00～名古屋栄の中央教会に

て中部部会のメネットアワーが田上メネット事業主任をむかえて開催されました。

今期の中部メネット主査加藤メネット(名古屋クラブ)の進行で始まり、西村、長井両メネットのウクレレ伴奏で「メネットソング」を斉唱しました。その後、昼食タイムを挟んで主任の挨拶、今期のメネット活動についてのお話があり、そのプロジェクトのひとつの「発達障がいのある子どもの支援としてYMCAのリーダー養成研修会」への助成金のお願いがありました。そして中部の2つのメネット会、金沢、名古屋両クラブの活動報告がありました。金沢クラブはメンと共にいつも活動され、例会にも必ず出席されているとのことでした。名古屋クラブも今年からできるだけ例会に出席しようということになり、毎月の例会に出ていますとの報告でした。この例会出席はメネット一人からでもできることで、ここから始めることがメネット活動の第一歩かなと思いました。

続いて「愛実の会」の島しづ子先生に講演いただきました。「愛実の会」は重度の障がい者の施設で名古屋クラブのメネット会の皆様が奉仕活動を行っています。先生のお話はこの施設での障がいのある方々との生活から先生自身が得られたもので、「本音で語る」ことの重要性、それを互いにどう伝え合うかの難しさなどとても重みのあるお話でした。

服部智子

第二例会報告

9月第2例会報告

開催月日：2008年9月20日(土) 18:00～

場 所：名古屋YMCA本館

出席者：阿部、坂口、早川、徳田、服部、松原、坂倉、坂野、下村

- ① 10月第1例会について
10月4日(土) 19:00～
「フィリピン・ハートキャンプ報告」 報告者：松原君、ドライバー 早川君
- ② 今後の予定
9/28 街頭募金 グランパスは栄を担当
同日 17:00より「YMCA おたのしみ会」
10/26 南山バザー 参加予定 内容を検討する
- ③ 会議後19:00より開催された「YMCA 夏の感謝会」に参加
夏のキャンプ等の発表があり、その中で松原君が参加した
「フィリピン・ハートキャンプ」の発表もされた

フィリピンハートキャンプ



8月31日(日)～9月8日(月)まで、Philippine Heart Camp に行きまして。英語の達人？ プロカメラマン？として、化けの皮は直ぐに剥がれて、リーダーたちのお役にも立てない自分が歯がゆく、もどかしさと1人浮いてるような、そんな重い気持ちも持ちながらキャンプ中過ごしていました。

そんな中で、参加メンバー最年長という事もあり、オリエンテーションでの挨拶。英語少々、後は日本語、とても短くまとめて(長くしゃべれない)、なんとかホッとしました。そしてキャンプ最後の修了式の挨拶も仰せつかり、皆さんに手伝ってもらいながら、ビコール語？タガログ語？、と英語で、何とか無事、お役目を果たさせて頂きました。

でもこの事があったからこそ、私にとって、このキャンプがより一層、意義深いものになりました。(大浦さん、有難うございました。)それと記録係の方も反省点はあるにせよ、何とかなつたみたいで、ホッとしています。

キャンプ中の私は記録中心、黒衣役でしたが、キャンプが進むにつれ、子どもたちの笑顔、みんなの笑顔に引き込まれてしまい、心がどんどん通じ合っていくようでした。

振り返って、もう少しお役に立ちたかった、もっと交わりを持ちたかった、という想いと、特に、子供たちの笑顔と成長振りを見守り続けたい、という気持ちが、くすぶり続けており、是非また機会があれば、という思いです。

最後に皆さん本当に有難うございました。このキャンプを通じて心の癒しを一番多く頂いたのは、実は私かもしれません。

P.S.

とにかくレガシピ空港での期待感いっぱいの出迎えに始まり、キャンプ最後まで色々な場面で、私たちに寄せるアルバイの人々の期待感の強さを、ひしひしと感じさせられました。

とまた、アルバイYMCAのプログラムの中に私たちが目指しているもの

(全ての人々に生涯にわたる学習の場を提供し、相互の交わりと連帯を通して、共に生きる世界の実現を目指す)が、存在するのではないかと思えてならないのです。

Malts 松原 誠

(リーダーたちの活躍、子どもたち、キャンプ内容については10月の第一例会で)



Philippine Heart Camp

The 5-days YMCA Heart camp was life-changing. There were 20 kids 10 Filipino and 10 Japanese facilitators. And ONE GOAL ----- To help the kids cope up with the trauma they have had during the typhoon Durian. In five days we saw the transformation of the children. At first they were shy and scared but after the fun

activities we've had, they became active and lively ! They treat their facilitators like their brothers and sisters. They loved each other . We found a new family in the heart camp.

Although the communication was a problem because of the culture and language difference. Still we were able to express our love and care to one another.

We formed a very strong friendship. Both the Japanese and Filipino. We shared our ideas and culture. We received so much kindness. We saw a lot of smiles ! We learned a lot of new things and most of all WE FOUND NEW FRIENDS (Tomodachi).

This camp changed our lives especially the children.

It helped them to see more color in life a more beautiful life in the future !

All the experiences and the friends we had in the camp will forever stay in our heart ! Kimi wo wasurenai . thank you !

Dianne Bisonsa



(続) 富士山登山



昨年の富士山挑戦が途中までしか行けなかった為、昨年から準備を進め、富士山登山に 8 月 3 日~4 日にかけて再挑戦してきました。

結果から申し上げますと、残念ながら登山用車椅子の不調と使用した登山道(荷上げ用のブルトーザ一)の都合で、2,700 メートル登ったところでリタイアとなりました。

昨年に続き誠に残念であり、悔しく思いました。使用した車椅子の完成が遅れテスト走行ができていなかったのと、許可の関係などから登山道を富士宮口から直前で須走口登山道のブル道に変更したのも敗因です。

今回は 8 月 3 日午前 1 時に須走登山口を出発し、雲一つ無い満天の星空の下、真っ暗なブルトーザ一道を黙々と登り始めました。昼間登れば、ブルトーザ一の邪魔になる事を避ける為、夜中の出発としました。頻りに流れ星が流れます。また、山頂まで登る登山客の懐中電灯と山小屋の光がはっきりと見え、山頂が直ぐそこにあるような錯覚を感じてしまいます。眼下の遥か先には御殿場の町の光が見え、まるで宙に浮いているような幻想的な世界でした。

100 メートル登るのに 1 時間というペースで、一日目の目標の八合目山小屋までギリギリの時間でしたが、途中「今年は行けるかも」と思いながら必死で漕いでいました。午後の 5 時までには山小屋に到着しないと宿泊させてもらえません。

昨年の反省を活かし、今年は車椅子を軽量化したのと四輪駆動としています。四輪駆動のお陰で急な斜面でも昨年よりは滑りません。

東の空がしらしらとしてきて、地平線に太陽が現れました。ご来光です！！それは見た者だけが感じる最高の美しさです！

ご来光を見ながら早々に朝食を済ませ、先を急ぎます。

日が昇ってから、それまでは寒かったのが嘘のように容赦なく日差しが照りつけ、暑くなってきました。富士山には木が無いので、日陰がありません。また車椅子から降りられないので、途中体の向きを変えて日差しを避ける事もできません。でも今日の山小屋を目指し、必死に漕ぎました。

しかし 2,700 メートルまで登ったところで登山用車椅子が悲鳴を上げてしまい、突然のリタイアとなりました。直前の完成でしたので、テスト走行もできていないのですから、仕方が無いです。

また富士山は厳しい山です。流石に日本一高い山でした。

私と何人かの方々はこちらで下山することとなりましたが、一緒に参加して下さった知人のご家族伊藤

様と私の息子と娘がそのまま山頂を目指すこととなりました。

この後伊藤様と息子(高 3)、娘(小 3)は山小屋に宿泊し、4 日山頂に立つ事ができました。伊藤様ありがとうございました。

昨年に続き同行下さった恩師の池田先生は「来年も挑戦しなさい。私は君が山頂に行くまで付き合う」と言って下さいました。ありがたい話に他の皆さんもそう言って下さいました。本人的には「またやらないとダメなのか～(苦)！」と正直感じていました。ここでまた一つ嬉しいことがありました。登山口で待つ私に息子が帰ってくるなり「山頂に立つと人生感が変わるというのは本当だった！来年も一緒に行くから絶対行った方がいい！」とってくれました。う～ん・・・行かないとダメなようです(笑)

今回もサポートして下さい下さった方々ありがとうございました。また多くの方々から応援のご連絡を頂き、ありがとうございました。少しでも多くの方に私の思う「感謝」「挑戦心」「勇気」を伝えるべく、来年も挑戦の方向で検討してみます。(サポートして下さい下さったのは以下の方々です。池田様、伊藤様ご家族、佐藤様、村北様、阿部恵彦氏、同氏息子様)



そ の 他

1. 今月の誕生日

happy birthday
該当者はいません
congratulation!

2. 西日本区強調月間

9月強調月間 BF

整理作業を通してのクラブ内でのコミュニケーション。

島崎 正剛 ファンド事業主任

